

RCUK International Meeting on Open Access 報告 (Executive Summary)

平成26年4月21日
独立行政法人 科学技術振興機構
情報企画部

1. 会合の外部仕様



- 名称
 - RCUK International Meeting on Open Access
 - 当初、“G8”会合として企画・案内されたが、クリミア半島をめぐる情勢から上記のように変更された
- 日時
 - 2014年3月20日
- 場所
 - Church House Conference Centre, London SW1
- 召集者
 - 英国、大学・科学担当大臣David Willetts下院議員(保守党)
 - 大学・科学担当大臣、Minister for Universities and Scienceは、閣外の無任所大臣
- 参加者
 - G7+EC (各代表者2名)
 - 科学技術誌出版社の代表(2名)
 - オランダの代表: Elsevierはオランダの企業
- 日本からの参加者
 1. 在英日本国大使館 一等書記官(科学技術担当) 奥篤史
 2. JST 情報企画部 上席主任調査員 恒松直幸(報告者)

2. 会合の組織（1）



■ 議長 前後半で分担

- Prof. Rick Rylance, CEO AHRC and Chair of RCUK Executive Group
 - ✓ AHRC: Arts and Humanities Research Council, 芸術・人文リサーチカウンシル
- Prof. Paul Boyle, CEO ESRC and President of Science Europe
 - ✓ ESRC: Economic and Social Research Council

■ 趣旨

1. 公的資金によって賄われた研究成果の“Open Access”の促進という共通の目標実現について、これまでの各国の経験を共有し、これからの課題を議論する
2. この共有目標の実現のために協調できる行動を見つける

■ 趣旨への注

- 大学・科学担当大臣David Willetts氏が、G8各国のカウンターパートに対して発出した書簡(昨年7月4日付)で、このような会合を呼びかけた
- 大学・科学担当大臣は、ビジネスイノベーション技能省 (Department for Business, Innovation and Skills) 付きの閣外大臣であり教育省 (Department for Education) ではない。

2. 会合の組織（2）



■ アジェンダ

1. Setting the Scene
 - ✓ 議長によるイントロ
 - ✓ 分野別の事例報告-Biomedicineと人文科学
 - ✓ 大学・科学担当大臣のプレゼン
 - ✓ 出版社の対応状況
 - ✓ Science Europe, GRCなどの国際的組織の動きの報告
2. National Perspective
 - ✓ Finch Group
 - ✓ G7各国
 - ✓ EU
3. Working Together
 - ✓ GOLD vs. GREENをめぐる討論
4. Next Steps
 - ✓ 今後各国における進捗状況を見るために“Observatory”を設置すること
 - ✓ そのためのWGを設ける

■ David Willetts科学・技術担当大臣プレゼン

- Finch Reportに依拠しつつ、以下の論点を提示した
 1. 現状は、GOLDをベースにGREENをオプションとしているが、これは“Immediate Access”と呼べるか
 2. 出版費用を適切に反映した価格となっているか
 3. (テキスト)データ・マイニングが可能となる形で公開されているか
 4. 現状のモデル、「GOLDをベースにGREENをオプション」は、存続可能か
- その上で、これはもっと野心的なプロジェクトの一部でしかないことを意識して議論して欲しい
 - ✓ アクセスを必要としているのは研究者だけではない。若手研究者、中堅中小企業（SMEs）も視野に入れていくこと
 - ✓ 研究者情報へのアクセス
 - ✓ 研究データのオープン・アクセス。これについては、Boulton教授の“Science as an Open Enterprise”を参照のこと。

■ (注)Finch Reportの主題は2つある

- publication of research and its subsequent use

■ 主な論点： GOLD vs. GREEN

- 持続可能か
 - ✓ “Double Dipping”(出版社による二重取り問題)
 - ✓ 出版補助費の財源
 - ✓ 出版社のコスト負担
- 透明性
 - ✓ 出版社のコスト構造
 - ✓ 用語の定義
 - ✓ Observatory
- 学問分野間の相違
 - ✓ エンバーゴ期間
 - ✓ 研究者の行動とそれに影響を与える資金供給機関の行動

■ この他に

- データ・マイニングについて
 - ✓ 著作権法との関連
 - ✓ 分析ツールの開発

■ 結論： Observatoryの設置

- 意味のある統計数値が各国から出てくるようにWGを設置する
- 特に、用語の定義が曖昧
 - ✓ GOLD, GREENの定義
 - ✓ Openという言葉と著作権との関係
 - ✓ データ・マイニング可能な状態とは？
 - ✓ ピア・レビューとは

■ 考察

- 進捗度、熱意ともに、英国とそれ以外の諸国との落差が大きい
- 英国は、テキストデータ・マイニングを念頭において考えている
- GOLDにせよGREENにせよ、著作権との関係を整理できているのは英国だけのように見える

(参考)JST内部での議論におけるGOLDとGREENの定義

- オープンアクセス化は、国の施策として進められている機関リポジトリを基盤として活用し、研究者が発表したジャーナルの許諾を得たうえで機関リポジトリ上での「一定の期間」内の公開を推奨する。(グリーンロード)
※公開を義務化していない。
- 研究者がオープンアクセスを前提とした出版物に論文を発表することにより対応することも可能。(ゴールドロードも可)

- 専門は、人口地理学 (Population Geography) 人文地理学の一部門だが、人口学の方法論を用いるので定量的な分析が主流
 - Member, ESRC National Centre for *e-Social Science review panel 20*
 - International *Health Data Linkage Consortium* 2008-present
 - Royal Statistical Society Working Party on *Data Capture and Society* 2008- present
 - Royal Society of Edinburgh, Economic and Social Sciences Sectional Committee, 2008-10
 - President, British Society for Population Studies 2007-9
 - Co-editor of the journal *Population, Space and Place*
 - Board member of the Long View Charitable Trust
 - Steering Group for *Data Exchange in Education and Children's Services, Scottish*

出典 <http://www.st-andrews.ac.uk/gsd/people/pjb8/>

- イタリックは、報告者による